向日葵だより

黒沼共同会計事務所
Kuronuma Accounting Office
2019年9月10日発行　第264号

英雄たちの選択「100年前の教育改革～大正新教育の挑戦と挫折～」

今回のBSプレミアム「英雄たちの選択」のテーマは「教育改革」でした。来年には、学校の「指導要領」の変更、「センター試験」廃止などの大幅な教育改革がなされる予定です。そこで、今から100年前の大正時代にも似たような教育改革のうねりがあり、与謝野晶子など名だたる芸術家や教師たちが、草の根から子供中心の教育を掲げて活躍するも、20年ほどの短期間で下火となる歴史がありました。その時“何を目指し、なぜ挫折したのか”現代にも通じる教訓を明らかにしようとするものでした。

…江戸時代の寺小屋では、一人ひとりの学力に合わせた個別指導型の教育を行っていたのに対して、明治時代以降の学校教育では画一的な授業で、子供たちを標準型にはめ込み、ついていけない子供たちは落ちこぼれていく…というやり方を長く続けてきました。（明治維新のあと、「列強諸国に追い付け追い越せ！」のため、国の管理のもと学校教育は行われました。）このときから一斉教授、というやり方で同じ知識を先生が一方的に覚えさせる、いわゆる「詰め込み教育」が始まったともいわれます。映像でも紹介されていましたが、明治38年の図画工作の教科書には、無味乾燥なヤカンなどの手本の絵の輪郭が書いてあるだけで、これを正確に模写することが求められていました。作文の「綴り方」の授業では、手紙の定型文など大人の書いた文章をただ写すだけのものだったようです。このように明治時代では「画一教育」「詰め込み教育」がなされておりました。…1905年に日露戦争に勝ち、日本が豊かになってくると人々の意識にも変化が訪れ、「大正デモクラシー」が盛り上がる社会風潮の中、教育の世界でもそれまでの画一的な詰め込み教育を廃して、子どもの個性を尊重する新教育の運動が芸術家を中心に盛り上がりました。…この時期に、独自性の高い教育を目指した私立学校が登場するようになりました。…一方、公立学校でも新しい教育が取り入れられつつありましたが…その後の学歴偏重社会の中で、父兄の要望によって多くの学校が受験に特化した学校へと変遷をしていくことになるのでした。…さらに、昭和の軍国主義の教育への介入により、大正新教育は完全にとどめを刺され、与謝野晶子の文化学院などは、政府によって閉鎖されることになったのでした。　…私どもの記憶に新しい「ゆとり教育」の失敗など、いつの時代も教育改革は難しいと改めて感じた次第でした。

先頃、山形市内の「與田教育財団」の創設者であられた與田博利氏の葬儀告別式がありました。福岡県柳川の幼少期からの幾多の艱難辛苦を経て、当時のベンチャー企業を異郷の地（苦学仲間の郷里の山形）で立ち上げられ、多くのグループ企業の総帥として功績を残されました。その人生経験を通じて、事業の成功は多くの方々の援助のお陰であり、私財を有効な形で社会に還元することを決意、山形県内の若者の大学進学の夢を叶える育英事業の財団を設立されたのでした。遡れば、酒田市本社の前田製管の創業者であられた前田巌翁の多額の寄進を拠りどころとする「前田体育振興基金」「前田テクノロジーファンド」、寒河江市の日東ベストが組成される「日東食品教育振興基金」等の人作り（育英・体育・食育・学術振興）面での貢献事業があり、敬服いたしておるところであります。

公認会計士　黒　沼　　寛